

令和元年度 第1回 富谷市総合計画審議会 会議録

日 時：2019年7月23日（火） 15時00分～16時45分

場 所：富谷市まちづくり産業交流プラザ3階 イベントスペース／セミナールーム

参加者：富谷市総合計画審議会 出席委員13名

：富谷市 5名

：事務局 5名

1 開会（司会：企画部長）

2 市長挨拶（若生市長）

本日はお忙しい中お集まりいただき、また日頃よりそれぞれの立場から当市にご指導・ご支援・ご協力いただき感謝申し上げます。

総合計画審議会は、昨年この「TOMI+（とみぷら）」で実施し、一年ぶりの開催です。国の地方創生拠点整備交付金を活用し、全面改修し、昨年7月1日にオープンしました。施設の改修・整備はできましたが、人が集まるのかといった不安がありましたが、おかげさまで、現在、2階の個室は6室のうち5室に入居、フリー席で9者入居をいただいている状況で、併せて整備した民俗ギャラリーについてはこれまでは年間千人くらいの利用だったのが昨年7月のオープン以降、約2.5倍の2,500名が集まっています。シルバー人材センターやくろかわ商工会富谷支部などにも入居いただき、さまざまな方々集っていただいたおかげで、ここに人が出入りするようになりました。昨年の8月に開塾した起業塾富谷塾は、予想を超えた入塾者が集まり、1期生は75名、そのうち6割が30代40代の女性です。さまざまな活動が行われており、子育て中のママたちが集まって、自発的にとみマママルシェの開催、十宮夜市の開催、梅林再生プロジェクトのはにかむ富谷は、塾生が中心となり梅林の復活を目指し取り組んでいます。塾生が75名も集ったばかりでなく、行政に頼ることなく自主的に活動しており、住民主体のプロジェクトがさまざま発足した状況からとみプラを作ってよかったなという想いを強くしたところです。おかげさまで第2期生は100名集まり、今年も本格的に起業創業を学んでいただいております、出会いと学びの場としてさらに充実しているところです。来年が富谷宿開宿400年ですが、しんまちの新たな活性化に向けて、地方創生の柱のひとつとして取り組んでいきます。

富谷市では女性に活躍頂いており、この審議会でも13名中5名が女性ですが、5月の内閣府の発表によると、富谷市の審議会等における女性の割合は46.5%と全国の市町村の中で第3位となっています。これは平成29年度の数字ですが、平成30年度に独自に集計したところ、その割合は上がっていたので、さらに上位になっているかもしれません。

今日は平成30年度の地方創生総合戦略の取組、そして改訂についてご意見を賜りたい

と思います。改訂は、今後、取り組んでいきたいと考えている企業版ふるさと納税に関連するものです。皆様からご意見を頂き、総合戦略そして総合計画を両輪で進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 委員委嘱

(委嘱状交付)

(委員自己紹介)

4 議事

(1) 会長の選任について

互選により、会長に草間委員が就く。

(会長あいさつ)

私は国、県、市町村とも仕事をしていますが、一番活気のある自治体は富谷市です。現状、全国では人口が減り、疲弊しています。その中で富谷市では、市長や市が掲げるまちを皆さんで作って、市民の皆さんに住んでよかったと思ってもらえるような、そして全国のモデルとなれるようなまちになるよう、私たち審議会委員も取り組んでまいりましょう。よろしくお願いいたします。

※ここから、会長が議長となり議事が進行された。

(会長職務代理者の指定について)

会長の指定により、職務代理者に佐々木委員が就く。

(2) 富谷市地方創生総合戦略の平成30年度の取組内容の評価・検証について

(草間会長)

それでは、議事の(2) 富谷市地方創生総合戦略の平成30年度の取組内容の評価・検証について、事務局から一括で説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

この審議会については、「富谷市地方創生総合戦略」の第1章の(3)「計画期間と管理体制」において、「KPI等の評価・検証については、産学官金言の各分野から構成される「富谷市総合計画審議会」で行い、それを議会に報告し、公表すること」としています。また、「富谷市総合計画審議会」の議論や議会の意見を経て、基本目標や具体的な施策の見直しや改善を図ることとしています。以上のことを根拠に、この度、審議会を開催させていただき、皆様に総合戦略の進捗の報告を行い、評価・検証を行っ

て頂くこととなりますので、どうぞよろしくお願い致します。

では、配布しています（資料）に基づき、進捗の報告を行います。

（資料1「富谷市地方創生総合戦略取組状況について（平成30年度実績）」により進捗の報告）

（草間会長）

ありがとうございました。では、順次、皆さんにご意見を伺ってまいります。

まずは、基本目標1について、何かご意見はございますか。

では、私から、民俗ギャラリーが皆さんの尽力により整備されましたが、山形県新庄市にふるさと歴史センターがありますが、古民家などにある民具を市で集めていますが、日本で一番の収集です。富谷市の人口のうち約10%は新興住宅地でなくもともとの富谷市に住んでいる住民なので富谷市にも民具があると思います。民具は宝になりますので、古民家の建て壊し等の情報があつたら、とりあえずストックしておき、将来的には展示、貸出等のビジネスに活用できます。

続いて、基本目標2についてはいかがでしょうか。

私から2点あります。内部資料でかまいませんので、天候を入れてほしいと思います。異なる天候において来場者の傾向はどのようなだったか、ただの数字の把握だと弱いと思います。雨天だと客足が鈍る傾向がありますので、天候を含め傾向を把握していただければと思います。もう一点は、富谷市の食品について機能性表示食品の届出をしてはどうでしょうか。付加価値が付きピーアール効果もありますので、ぜひご検討ください。

（石井委員）

地方創生総合戦略と地方創生交付金充当事業について、改めて関係性を説明願います。

（事務局）

地方創生総合戦略については平成27年に策定した5箇年計画で、今年度までの計画になっており、今年度が節目の年にあたっています。後程、説明しますが、現在、国では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の次期戦略を策定作業中で、今後新たな戦略が策定される予定になっていますので、本市としても国の動向を踏まえながら新たな展開を考えているところでございます。

（石井委員）

交付金充当事業も同様でしょうか。

(事務局)

交付金充当事業については、年度単位での申請となり3年間のKPIを設定しています。

交付金充当事業は地方創生総合戦略の基本目標の達成のために行う事業として国の交付金の採択を受けた事業です。

交付金充当事業は、新たに申請が認められると3年間、別に新たに申請が認められるとまたそこから3年間というかたちです。富谷市の場合は毎年新しいものが出ている形です。見せ方は工夫していきたいと思います。

(石井委員)

戦略の7ページの図のように富谷市総合計画の中に前期基本計画があり、さらにその中に地方創生総合戦略があるということがいつも混乱してしまいます。このあたりも踏まえ、資料作成の工夫をお願いします。

(草間会長)

資料1は見せ方がポイントだと思います。単年だけでなく経年でも見られるようなものにする、過年度分は薄字にするなど、混乱が出ないようなシンプルなものを作成願います。

基本目標3についてはいかがでしょうか。

私から1点。世帯のことにに関して、リバースモーゲージが活用されると高齢者の人や若い人の流れが変わり、住民の新陳代謝が促進されます。市中銀行では事業展開できるのではないのでしょうか。人口が頭打ちですので、世帯の住み替えという視点で考えていく必要があります。

(佐藤委員)

会長から話の出ましたリバースモーゲージについては、富谷市でない地域では必要なところもあるかもしれませんが、富谷市においては時期尚早と思っています。ただ、いずれは必要になるかと思いますので、そういった時には制度融資を積極的にアピールしていければと思っています。

(草間会長)

基本目標3はよろしいでしょうか。基本目標4についてはいかがでしょうか。

(平岡委員)

基本目標4のなかの「まちづくりアンケート」は、平成28年度からは実施していないと思いますが、2年も過ぎると状況も変わってきます。アンケートについては、ページ数や分量が多いと答えることが大変なこともありますので、またアンケートをとること

がありましたら、肝心なところに絞った内容にするなどの検討もお願いしたいと思います。戦略の取組結果を見ると、富谷市に住みこの審議会に参加している立場の人間としても富谷市の取組は大変素晴らしいと思っています。様々な考えの人がいると思いますが、私は素晴らしいと思います。

(富田委員)

基本目標2になりますが、とみや国際スイーツ博覧会について、ただ買い物をさせるわけではなく、多くのコンテンツが用意されている点がいいと思います。実は、売り上げの客単価はそれほど高くありません。ここを上げていくことは可能性として残っていると考えています。交流人口を増やすことと、客単価を上げることを数字の目標として持っていていいと思います。達成率として大きくクリアしている状況ですが、今後はどんな目標とするかも考えていかなければならないと考えています。

(小松委員)

居住地域で空き家が出てきています。空き家対策として、例えば、古い民家を活用して若い世帯を呼び込み人口を増やしたり、高齢化が進む農業への若手の従事者を増やし移住してもらってはどうかと考えています。しかし、土地の情報がなく、土地を求めているも移り住むことが困難な状況です。新規就農者もいますが住まいは団地です。市の空き家情報の提供があると農業地域でも、もっともっと人が増えると思います。

(佐々木委員)

全体的にすばらしいと思います。基本目標4の自主防災組織の設立について、少しずつは上がってきていますが、なぜ設立できないのかが疑問です。新しい団地の住民の方が必要性を感じていないのか、それとも昔からの地域では高齢者が増えてきたことで、そこにたどり着かないということなのか、どんな風に分析していますか。

(若生市長)

このことについて、町内会単位では自主防災活動はやっています。ただ、それを自主防災組織として規約を作って組織化しているかどうかということです。活動はしているのであえて組織化までしないという考え方の町内会もありますので、全町内会で設立、目標達成とはなっていない状況です。

(増田委員)

基本目標3の待機児童ゼロの実現についてですが、待機児童数を見たときに多くの人が思うことは保育士不足ということではなく、保育所が足りないんだということだと思います。富谷市で子供たちと関わってくれる気持ちのある保育士を呼び込む、増やすと

いった形の目標の立て方もあるのかなと思いました。建物を建てればよいのではなく、中身が伴わなければならないことはわかることではありますが、せつかく施設はあるの
にという感想です。

(草間会長)

関連する事例として、私の知っているところでも公設民営で保育園を運営してほしいとの話がありましたが、保育士が確保できずに断念したケースがあります。保育士は待遇のよい東京のほうに行ってしまうというのもあるようです。保育の問題で共通理解したいことは、市で待機児童ゼロとなったとしても、また待機児童が発生するというたちごっこであるということです。女性の労働参加率も上がっています。保育所を整備しても、また不足という状況になってしまいます。保育士の確保をどうとらえていくかということがあります。

(大川原委員)

達成率が 100%を超えるのは会社ではあまり見たことがなく、うらやましい限りだなと思っていました。牛たんの会社ですが、とみや国際スイーツ博覧会にも 2 回目から参加させていただいていて販売もしています。毎年毎年、着実にお客さんが増えており、昨年、1 日目は雨でしたが、その分 2 日目に多くのお客さんで賑わいました。毎年のブラッシュアップによりもっと大きくできる企画だと思っています。初めは、スイーツのイベントで牛たんが売れるのか疑問でしたが、おかげさまで好評をいただいています。今後も企業が一丸となり、お力添えできるところはしていきたいと思っています。

(大川委員)

基本目標 3 の「子育て世帯 5 0 0 世帯の増加」について、説明をお願いします。

(事務局)

資料 1 の該当部分の右側で、基準となる H27. 3 時点の世帯数として 6,947 世帯とお示ししており、今回の実績としてその隣に H31. 3 末時点として 6,693 世帯をお示ししております。これらの減少数として、実績値 254 世帯となっています。

(大川委員)

私は団地に住んでいます。若い方も一部おりますが、高齢者が増えています。このような状況ですので、団地の活動に若者も参加できるような工夫をしていただければと思います。

(菊地委員)

今回、初めてこの場に参加させていただきました。「子育て世帯500世帯の増加」に関して、私はもともと黒川地区を業務エリアとする農協にいますが、農家世帯が減ってきています。富谷では南部地域・西成田コミュニティセンター周辺地域でもどんどん減ってきている状況があります。そういったところで、人の出会い、人が交流できる場所が作られると状況はもっと違ってくるのではないかと感じています。例えば農業地区と団地との交流を通し、同じ富谷にもいろんないい所があるんだなということを感じてもらえる場面があるといいのかなと思います。

(草間会長)

500世帯の定義について、KPIを作るということはエビデンスに基づいて政策・立案しなさいという大きな狙いがあります。実数値に近い値にする方法もあろうかと思います。

(及川委員)

「待機児童ゼロの実現」に関して、私は昨日から市の就学相談会に行っておりましたが、相談会も踏まえ保育士の不足とともに障がいを持ったお子さんの増加への対応も課題なのかなと感じています。学校にかかわる部分としては、全市立幼稚園、小学校、中学校がユネスコスクールに登録されたわけですが、全校が登録されたということで職員の意識も変わってきてまして、活動も充実してきています。もちろん、校長の意識も変わりました。

(草間会長)

高萩市の事例では、教育長・教育現場から障がい児の対応が大変だという意見が出されて、心理学に強い大学と市が協定を結び、夏休みに先生向けに障がい児への対応の研修会をやってもらったというのがありました。現在、障がい児の発症率が非常に高く、また障がいも多岐に渡ります。学校の先生が苦勞されているので、そのバックアップ、例えばそういう専門機関と協定を結び、先生方への研修をすると、先生方も視点が広がるのではないのでしょうか。

(草野委員)

富谷市の強み、まちの強みは今回の結果からみてもスイーツ（博覧会）かなという印象です。これを一過性で終わらせることなく年間を通した継続した取組となるように、新たに場を設け、第一次産業が栄え、外国人観光客誘致、障がい者雇用など多面的に結び付けられるような仕掛けを実現してほしいなと思います。まちの活性化は一時的なものではないかなと思います。

(草間会長)

人を呼ぶような仕掛けとしてスイーツグランプリ、俳句甲子園、B級グルメ選手権、ゆるキャラグランプリなどありますが、例えばご当地ソング選手権などはあまりやられていないので、全国の先進事例となるような取組をやってみるのもいいのではないのでしょうか。

平岡委員がアンケートについておっしゃっていましたが、人の価値観や満足度は変化します。アンケートを取る際に、定性的・定量的の指標を作ってはどうか。住み良さについてどのようなものに満足を感じるかなど定性的な内容をアンケートでとって把握し、定量的なものは市で整理するなどして総合計画に活用してはどうか。

資料1については以上でよろしいでしょうか。

では次に議事(3) 地方創生推進交付金事業の重要業績評価指標(KPI)及び地域再生計画の数値目標の見直しについて事務局からよろしくお願いします。

(事務局)

では議事(3) 地方創生推進交付金事業の重要業績評価指標(KPI)及び地域再生計画の数値目標の見直しについてご説明申し上げます。

資料2については、地方創生推進交付金事業のKPIの見直しをさせていただきたいと考えています。該当するのは資料1の4ページの(3)『富谷市まちづくり産業交流プラザ』を拠点とした産業創造プロジェクトで、この事業は地方創生推進交付金を頂いております。交付金は、平成30年度は「富谷市まちづくり産業交流プラザ」の運営費にあてています。2年目となる今年度も同様に運営費にあてていますが、交付金事業費の申請にあたり、平成30年度に申請した事業費に上積みをしております。上積み理由としては、富谷塾の塾生の申込が見込んでいた数よりもかなり多かったことなどから市民の起業創業機運の高まりをとらえ、富谷塾や富谷市まちづくり産業交流プラザの事業を充実させて運営していきたいと考えて国に申請したものです。その際、国から事業費を上積みさせるのであればKPIも上積みする必要があるとの指摘がありましたので、それを受けて、今回、数値目標やKPIを上方修正させていただいたものです。内容は「富谷まちづくり産業交流プラザを拠点とした起業創業の実現」を15件から19件に、「IT企業誘致数8社」を「IT企業等誘致数15社」に、こちらはソーシャルビジネスにより地域課題の解決に取り組んでいるベンチャー企業にサテライトオフィスとして来ていただいているケースもありますので、IT企業に関わらず広く誘致したいということで「等」を付けさせていただき、誘致数も上方修正させていただいています。また「新規雇用者数」も8人から15人に上方修正させていただいています。資料3について、見直しは基本的には同じ内容になっています。地方創生交付金の事業計画を提出する際には、財政的支援を受けるために地域再生法に基づいて地域再生計画を作成して国から認定を受ける手

続きが必要になり、この計画にも地方創生交付金の事業計画と共通の KPI や数値目標を記載します。よって、こちらについても同様に内容の修正をさせていただくものでございます。

よろしくお願いいたします。

(草間会長)

「企業」から「企業等」になった場合、NPO 等も入りますか。

(事務局)

入ります。

(草間会長)

その他よろしいでしょうか。ではご説明の内容で修正手続きを進めることになります。続きまして、議事（４）富谷市地方創生総合戦略の改訂について、よろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、富谷市地方創生総合戦略の改訂についてご説明させていただきます。

総合戦略の冊子の 17 ページをご覧ください。市長からも話がありましたが、現在、富谷市民図書館の整備に向け取り組んでおります。その整備に向けましては、公的財源の他、広く公募し、例えば企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディングなど外部資金の調達も考えながら進めていきたいと考えています。今後の活用の検討にあたり、企業版ふるさと納税の活用のためには、地域再生計画を作成して国に認定をいただかなければならず、その地域再生計画には、総合戦略に位置付けられている企業版ふるさと納税を活用する内容を記載する必要があります。よって、お示しのとおり、今回、総合戦略に図書館の整備という項目を付け加えさせていただくものです。

併せまして、「富谷市民図書館整備 基本計画 ダイジェスト版」をお配りしております。どうぞよろしくお願いいたします。

(草間会長)

みなさん、いかがでしょうか。

海外の図書館、例えばアメリカ、カナダ、イギリスなどでは語学の研修をやっています。単に本の貸し出しだけではなくて、知の拠点、インキュベーション機能も持っています。また、多くの人が交わる拠点ともなります。富谷市にはこれまで図書館がなく、公民館図書室としてネットワーク化されていますが、こういった地域特性などを活かして交付金や補助金の獲得を検討してはどうでしょうか。では、追記することで進めてい

ただきたいと思います。

続きまして（５）次期総合戦略策定に向けた国、県の動向について、よろしくお願いします。

（事務局）

（資料５「第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けて」、資料６「次期総合戦略等の策定方針について」により国及び宮城県の動向説明）

本市におきましても、国や県の動向を見定めながら次期総合戦略を策定してまいりたいと考えております。本市の状況ですが、総合戦略の７ページをご覧ください。表のところですが、富谷市総合計画の中の前期基本計画に地方創生総合戦略が位置付けられています。この地方創生総合戦略の事業期間は 2015 年から 2019 年まで、総合計画の前期基本計画の終期は 2020 年までとなっていますので、期間に 1 年のズレが生じています。この状況については、宮城県の状況と類似しておりますので、総合計画の後期基本計画の始期 2021 年度と本市の次期地方創生総合戦略の始期を合わせられればと考えており、現在の地方創生総合戦略についても 1 年間の延長ができればということで検討しております。こういったことについても、今後、審議会の皆様にもお諮りしながら進められればと考えております。

（草間会長）

ありがとうございました。わかりやすいほうがいいと思います。

最後にその他として、皆様、何かございますか。

（佐藤委員）

おかげさまで銀行は様々なお客様にご利用いただいています。その中で、今後富谷市で整備する図書館の中に、とみや国際スイーツ博覧会のようなことが通年でできるイベントスペースを設け、地元でスイーツを作っている方々がローテーションで入るのはどうかといった話をいただくことがありますので、話題提供させていただきます。

（平岡委員）

富谷市民図書館についてですが、これまで何年かけて市民の方々から意見を聞く場を設けてきましたので、これからは進めていくことだけを考えて、前向きに取り組んでほしいと思います。市民も含め、皆さんで話し合い、十分な意見が出て、現在の計画になっているので、期待してお任せしようと思っています。市長が一人で決めたわけではないので市民の皆さんも理解していると思います。完成してよかったねとなるような図書館にしてほしいと思います。

(草間会長)

他にはよろしいでしょうか。

では最後に私からですが、国の動向のなかで関係人口や Society5.0 などキーワードとしていくつかありました。今後は、国の動向を踏まえこれらをいかに取り込んでいけるかということになろうかと思います。

活発な議論をいただきましてありがとうございました。以上で審議を閉じさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

(事務局)

皆様ありがとうございました。

最後に、西村副市長より閉会のあいさつを申し上げます。

(副市長)

長時間にわたりご審議ありがとうございました。本日のご意見をしっかり受け止めてさらに良いまちづくりに励んでいきたいと思います。資料1ですが、目標と実績の部分でもっと見やすくという意見がありましたので改善してまいります。本日いただきました貴重なご意見は市政に反映してまいりたいと思いますので、引き続きご支援ご鞭撻をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

以上